NO.709 2020　　聖イグナチオ教会報

10月

カトリック麹町教会

MAGIS

『マジス』　―　「より、もっと、さらに」

教会テーマ『勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい』（教皇フランシスコ）―「ミッション2030」― 新しい協働

コロナ禍のなかでの信徒への励まし
～教会学校の子供たち、若者へのケア～

助任司祭　ボニー・ジェームス

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年2月26日（水）の灰の水曜日ミサをもって、教会活動は中止となりました。2000年も続いてきた教会の長い歴史のなかでも、最大の礼拝・行事であるごミサでさえできないというごく稀な事情におかれたのです。ミサやその他の秘跡、または様々な活動を中心として信仰生活を歩んできた方々にとって大きな試練だったに違いありません。

現在、教会活動は部分的に再開され、オンライン入門講座も始まり、ご年配の方、基礎疾患のある方のために、毎土曜正午に特別な主日ミサをしていますが、皆が自由に教会に通える目途は立っていません。

このようにしてコロナ禍は様々な面で信仰生活の限界を感じさせるものでしたが、その一方で様々な新しい方向性や希望の光も見えてきたように感じます。コロナ禍中ほぼすべての活動グループが活動を中止していた時も、活躍し続けてきた教会の若者の様々なグループがあります。そのなかで各教会学校リーダー、多言語の青年会メンバー、ネット上での若者の祈りの集いなどが目立っています。

最初に動き出したのは「子どもとともにささげるミサ」グループのリーダーたちでした。聖歌や朗読などを含むほぼすべての準備をテレワークにて行い、「子ミサ」のライブ配信を通して子どもたちが教会に集まれない非常事態宣言中でも自宅でごミサにあずかることができるようにしました。想定外の状況のなかで最初は少しとまどいましたが、日曜学校、土曜学校、中・高校生会を含む各教会学校のリーダーたちもネット上での様々な活動を通してコロナ禍の中でも子どもたちとのつながりを保ってきました。

英語圏の若者は毎週水曜日と日曜日に対面で行ってきた祈りの集いやわかち合いをネット化し、コロナに負けない勢いで現在も続けています。ZOOMでのごミサ、聖体賛美式、ロザリオの祈り、バーチャルクワイア（オンライン聖歌隊）なども行いました。

そして、今年度の若者による一番目立ったイベントは8月1日（土）にオンラインで行われた聖イグナチオの祝日のお祝い会でした。言葉の限界を超えて行われたこのオンラインの集まりのなかで、日本語圏、英語圏、ベトナム語圏、インドネシア語圏を含む4つの言語の青年会は一つに集い、祈り、分かち合い、何よりも交流の場を共にしたのはとてもよかったです。

このコロナ禍は一方では暗いイメージを残して去っていくと思いますが、他方で教会の未来の希望でもある若い世代の働きぶりが見えてきたひと時でもあると言えるでしょう。

できるだけ早く普段通りにみんなが集まり、祈り、活動ができる日が来るのを祈るばかりです。

▲Youtube配信中。紙芝居を通して子どもたちに聖書をわかち合う酒井神父

▲コロナ禍で教会に集まれない中行われた国際青年会によるバーチャル合唱団

▲子どもたちとZOOMで祈りの時間を設ける教会学校のリーダーたち

教会報 MAGIS 10月号

- ミッション2030「新しい協働」　2頁
- 9月の宣教司牧評議会から　3頁
- 4青年会の合同オンラインイベント　4頁
- 感染症に関する「お知らせ」と「お願い」　6頁
- 訃報（デーケン神父　マルコ修道士）　7頁

共同体を生きる

１０月の共同祈願

神を信じる私たちが、

イエス・キリストの救いの知らせを

信仰の仲間を必要としている人々のもとへ

伝えることができますように。

担当：宣教パウロ会

ミッション 2030 ～姉妹教会交流～

ロゴに込めた４教会の思い

十字架のもとに絆を結ぶ４教会、山口教会・祇園教会・六甲教会・麹町教会が、イエズス会の創立者である聖イグナチオ・デ・ロヨラの霊性を生かし、教会に籠ることなく、互いに助け合い、社会という広い海原に出て行く共同体となります。

ミッション2030「新しい協働」

一人ひとりがキリストのからだ

「新しい協働」グループ報告

ミッション２０３０の第４の柱「新しい協働」の年に当たり、教会報４月号に、活動と抱負を寄稿しました。しかし、コロナ禍により、５つの企画（定期フォーラム・巡礼・セミナー・東京五輪・パラ五輪・その他の企画）のほとんどが中止を余儀なくされ、皆さまには大変申し訳なく思っています。

今何ができるかを問い続ける中、いくつか具体化の動き（10月の教会祭、11月の教会黙想会、また、新たなＳＮＳを使った交流など）が評議員との協働において見えつつあります。

一方、教会の活動グループの在り方、社会の変化、司祭・信徒の減少や外国人信徒の増加に対応した小教区運営の見直し、イエズス会方針および姉妹教会との連携など識別し、進むべき道を模索する課題は残ります。その意味で、ミッション２０３０を持続可能な運動とするには、ミッション２０３０小委員会の役割（４月号既報）がヒントになると考えています。

「主は私たちに、この嵐のただ中で、問いただしておられます。目覚めなさい、どうあっても難破しそうに思える今この時にこそ、強い心と支えと意味を与えられる、連帯と希望を活性化させなさいと、求めておられます。」

教皇フランシスコ著（「パンデミック後の選択」カトリック中央協議会）の「怖れるな」のお言葉が胸にしみます。連帯と希望に満ちた「新しい協働」がたくさん実ることを願っています。

（小島　修矢）

▲乙女峠巡礼の出発地　津和野教会

Look West！ 姉妹教会交流と巡礼

「東京の皆さん、もっと西の教会に目を向けていただけないでしょうか」。

２０１６年、イエズス会の姉妹４教会、山口教会、祇園教会、六甲教会、麹町教会の合同会議の席上で発せられたある信徒の〝声〟です。この〝声〟がミッション２０３０発足の時と重なり、麹町教会の私たちの心の中に途切れることなく響き続けています。

この合同会議は、正式には「教会使徒職拡大会議」と称し、イエズス会運営の４教会の司祭に信徒を交え２０１６～１７年にかけて５回、上石神井黙想の家、麹町教会、六甲教会、祇園教会を会場として開催されました。４姉妹教会がイエズス会の教会としての独自性やアイデンティティを意識し、各教区、近隣の教会との連携も考慮し、未来の教会使徒職を聖職者と信徒が共に考え

9 月の宣教司牧評議会からのお知らせ

・年内の行事について、下記のように決定されました。（10 月については最終ページ「10 月の典礼と行事」をご覧ください）なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、計画を見直します。

・信徒会館のエレベーターは設置から 20 年が経過し、更新時期を迎えました。駆動方式の変更（油圧式から機械室レス式）を軸にした新エレベーターの設置計画について、施設委員会より工事概要、期間、見積費用が説明報告され、イエズス会日本管区長の承認後、着工することを了承しました。

≪11 月≫

1 日（日）	初聖体	10 時　主聖堂
7 日（土）	合同追悼ミサ 七五三祝福式	10 時　主聖堂 15 時　主聖堂
15 日（日）		ミャンマーデーの特別献金（東京教区）
22 日（日）	結婚感謝ミサ 教会活動連絡会議	10 時　主聖堂 13 時　ヨセフホール
23 日（月・祝）	教会黙想会	
29 日（日）	クリスマスバザー	ミニバザーとして実施を予定
11 月 24 日（火）～ 12 月 2 日(水)		聖フランシスコ・ザビエルに取り次ぎを求める 9 日間の祈り

教会祭
～講演会とオルガンと祈り～

テーマ：「新しい協働」コロナ禍の今を伝えたい
すべての命を守る

日　時：2020 年 10 月 11 日（日）15 時～ 16 時

場　所：主聖堂（定員 100 名）事前申し込み制
※ YouTube で LIVE 配信予定

講演会：イグナチオ教会国際青年会（SIIYM）の若者、保健医療現場で働く信徒による講話と主任司祭の話

オルガンと祈り：ソプラノ　大森幹子
オルガン　浅井寛子

※詳しくはイグナチオ教会ホームページに掲載致します。

コロナウィルスの感染拡大の状況により計画を変更することがあります。

≪12 月≫

19 日（土）	子どもと家庭のクリスマスミサ	主聖堂　14：00
24 日（木）	イヴミサ	15 時、17 時、19 時、21 時、22 時半（英語）主聖堂
25 日　（金）	クリスマスミサ	主日と同じ

担うことが目的です。各教会の現状、問題点、課題などを共有し、それに基づきさまざまな意見交換がなされ、この機会がミッション２０３０の４本目の柱「新しい協働」のアクションにも生かされることになりました。

イエズス会４教会の連携を示す共通ロゴ（２頁上参照）はこの会議の中で誕生しました。このロゴは教会報『マジス』で紹介され、４教会クリスマスメッセージ交換の際にも使っていますので皆さまのご記憶にもあると思います。

当拡大会議は一昨年より信徒中心のネット会議の形で引き継がれ、現在コロナの影響でお休みしていますが、基本的に隔月の交流を続けています。

冒頭で紹介しました〝声〟をヒントに、姉妹教会との交流をさらに広げるために企画いたしましたミッション２０３０「新しい協働」の交流と巡礼の旅。今は目には見えなくとも私たちの教会の支えとなって息づいている殉教者たちとの交流、そして、今を生きる西の教会との交流、さらに、共同体を生きる参加者同士の交流の輪を広げるためにも本年２０２０年の秋からスタートする予定でした。

第１回は津和野の乙女峠・萩殉教者巡礼と山口教会訪問、第２回は元イエズス会総長ペドロ・アルペ神父巡礼と祇園教会訪問、第３回は福者ユスト高山右近巡礼と六甲教会訪問です。２０１７年に列福された高山右近に続き、列福運動が行われている乙女峠の殉教者たち、そして、広島原爆後の救済に尽力されたペドロ・アルペ神父は本年２月正式に列福運動が開始されました。これらの運動の意義を深く知るためにも、また、共に歩む姉妹４教会の交流を通して何か新しい協働がさらに生まれるかもしれません。

残念ながら今年度からのスタートはコロナ感染症の影響で見送りといたしましたが、来たるべき時を待ちながら準備をしておりますので、皆さま、どうぞご期待ください。

（泉　安輝子）

4つの青年会がオンラインで合同イベントを開催

聖イグナチオの記念日を祝して

コロナ禍により、夏休みのイベントが相次いで中止になる中、聖イグナチオ教会青年共同体（国際青年会、日本青年会、インドネシア共同体、ベトナム青年会）が、8月1日第2回合同国際青年会をオンラインにて開催しました。

昨年、ヨセフホールで初めて行われた国際青年の合同イベントは、浴衣や甚平を身につけて華やかな雰囲気に包まれ、聖イグナチオの祝日と文化や友情、兄弟姉妹としてのつながりという賜物をお祝いしました。しかし、新型コロナウイルスの脅威により、今回は皆で集まる代わりに、それぞれの家から「つながる」ことに決めました。

より与え、仕える私たちに

このコロナウイルスは、私たち青年に意味あるイベントを企画することを止めることはできませんでした。聖イグナチオ教会内の異なる青年会（国際、日本、ベトナム、インドネシア）は協力して、今年もイベントを開催。Zoomを活用し、オンラインで参加者を集め、すべてのプログラムをオンライン上で行いました。

プログラムは司会者のいくみ（日本）とクリスチャン（ナイジェリア）によるあたたかい雰囲気の中、参加者を歓迎することから始まりました。数ヶ月ぶりの再会に、参加者みな心を弾ませていました。それぞれの伝統衣装を着て参加した人もいて、より国際的な雰囲気を味わうことができ、神父さまやシスター方も参加してくださったことは大きなお恵みでした。

プログラムの中で盛り上がった企画のひとつに、クイズ大会があります。単なる遊びではなく、私たちの守護聖人である聖イグナチオに関する知識が試されました。軍人が生涯で6800通もの手紙を書いたことなど、誰が想像したでしょうか！聖イグナチオの生涯をたどることは、「変革をもたらすのに遅すぎることはない」と教えてくれました。神さまは、より大いなるもののために、想像もできないほどすばらしい業を成しとげられるよう、私たちを励まし動かしてくださるのです。

そして、各共同体の代表者は信仰を深めながら、どのように神さまと教会のために仕える青年を育てているのか、日頃どのような活動をしているのか紹介し合いました。音楽やダンス、映像などでで信仰を表すパフォーマンスも行いました。それぞれの能力を「神さまのより大いなる栄光のため（magis）」に活かすことができたと思います。聖イグナチオの3つの価値観（他者のために生きる人間、一人一人への配慮、magis）を生活の中でどのように表していくかをわかち合うことができ、創造力に満ちたものでした。皆の熱意と懸命な努力は、もっと与えもっと仕えるよう励まし続けてくれるものだと思います。（国際青年会　ユニス・テリス・ピリ）

多様性の中の一つの信仰

フィリピン在住の私が国際青年会のオンラインの活動に参加し始めたのは、3月のことです。メンバーたちが謙虚に、自分自身のすべてを捧げて他者に仕える姿に感銘を受けました。コロナ禍の困難にもかかわらず、皆、神さまに代わって働き続けています。また、magisというテーマは、〝to be and to do〟の言葉の意味を深く考えさせられるものでした。

李神父さま、ニャー神父さま、フィルマンシャー神父さま、そしてボニー神父さまの話を聞いて、やはりmagisは「神さまのためによりよく、より偉大なことをもっと」という思いを絶え間なく思い起こさせてくれる言葉だと感じます。

一人ひとりに特別な賜物や能力が与えられ、私たちは神さまの愛と慈しみをそれぞれの方法で伝えていくために創られたことを信じることができます。大きかろうが小さかろうが、誰かに見られようが見られまいが、神さまの意志を行い、そのすべてを主にささげることがmagisにつながるのです。様々な形で神さまの愛を受け、共有したように、この行いこそがより多くの兄弟姉妹との対話へ

とつながるのだと思います。

私はまだ参加して間もないメンバーですが、国際色豊かで活発な活動から、同じように頑張ろうというとてもよい刺激を受けました。カトリック信者としての信仰が今、生きていることを確信しました。多様性を持ちながらも、ひとつの信仰に生きることは本当にすばらしいことです。

この経験は神さまとの関係をより深め、不可能を可能に変える人生が変わる旅路へと導いてくれるはずです。聖イグナチオ教会青年共同体は、どんな困難な状況にあっても変革を起こし続けられることを証しする生きた証人です。

（国際青年会ジョン・マーク・ガラン）

8 月 1 日に Facebook にて配信したイベントの様子をぜひご覧ください

イベントを開催して　各青年会代表より

【国際青年会代表】馬杉成華（日本／24歳）

4青年会合同イベントをオンラインで行うということで、他言語翻訳や配信環境の整備など検討事項が大変多く、初めは不安な気持ちの方が大きかったことを覚えています。

しかし、メンバーが同じ信仰のもとに集まり、それぞれの多様性を生かし合うことで、こんなにも偉大な、すばらしい業を成しとげられるということを今、私たちは証することができます。このイベントの成功はゴールではなく、聖イグナチオ教会青年共同体としての歩みにおける大きな第一歩だと思っています。これからも、より多くの兄弟姉妹とともに神さまの愛と慈しみを広く伝えていきたいです。

【青年会代表】川上智園（日本／28歳）

今回のオンラインイベントでそれぞれの青年会のメンバーと出会い、恵みの時を過ごせたことはとても大きな喜びでした。活動紹介やパフォーマンスでは、ベトナム語、インドネシア語の聖歌や聖イグナチオの生涯を表現した劇など、各青年会の豊かな個性が表現されていて、神さまとの関わり方を感じとることができました。

オンラインの限界や言語の壁はありましたが、それらを超えて共に過ごすことで「こんなにもイエスさまを愛する仲間がいるんだ！」という喜びに満たされ、歩んでいく大きな力となりました。仲間を通して、神さまを感じられた恵みに感謝です。対面で会える日が来ることを楽しみにしています。

【インドネシア共同体代表】クララ・デュイ・クリスティアニンティアス（インドネシア／23歳）

イベントは本当に素晴らしく、皆で楽しい時を過ごしました。この状況下においても聖イグナチオについて学ぶことができ、各青年会の発表もとてもおもしろく、感動的なものでした。おかれている環境に関わらず、より意味のある、より大きな助けとなることを行うよう教えてくれました。

また、インドネシア共同体の代表として、あたたかく迎えてくれたことに感謝しています。これからももっと一緒にイベントができることを楽しみにしています。

【ベトナム青年会代表】チャン・クァンフ（ベトナム／35歳）

新型コロナウイルスは多くの人々の命を奪い、私たちの家、財産、また聖イグナチオ教会へ行くことまで一時的に奪いました。しかし、熱意、愛の火を灯す精神、そして兄弟愛は決して奪われません。

今回のイベントはオンライン形式に変更されましたが、私たちは多くの言語で、世界の平和や感染症の終息を一緒に祈りました。他言語は聞いてもあまりわからないはずですが、神さまの存在は確かにわかりました。本当にとても思い出深い国際イベントでした。各青年会について理解を深めただけでなく、お互いに強い絆で結ばれていることを感じました。肉体的には会えませんでしたが、皆の親密さ、そして神さまの存在を感じるには十分でした。新型コロナウイルスさえも、神の愛における私たち兄弟のつながりをさまたげることはできないのです。

▲開会の歌はイベント前に録画した「自分をささげる祈り」

感染症に関する「９月のお知らせ（９月３日）」から（抜粋）

1.「４名」のグループから事前申し込み可能

今までは、７名のグループでしたが、最低４名のグループから認めることにしました。家族や友人などと誘い合わせて、グループでミサに参加することをお願いします。土曜日 18 時と、日曜日８時半のミサは比較的余裕がありますから、そのどちらかにグループで来てくださることを勧めます。

2. ミサの参加回数は控えめにお願いします

収容人数は制限されています。ミサ参加は月１回を目安にし、特に土曜正午ミサ（高齢者・病者専用＝８月の「お知らせ」に詳細）、日曜 18 時ミサ（個人参加可）は、皆が参加できるよう配慮ください。

3. ミサにおける「奉仕者の募集」

各ミサで参加者名簿の管理など、聖堂係の奉仕者が不足しています。特に、毎週土曜日正午ミサ（高齢者・病者専用）の奉仕者が足りません。高齢者の方でも、手伝える方は申し出てください。

4. 教会活動について

原則は 20 名以内、短時間。手指の消毒やマスク着用など感染症対策を心がけ、参加者名簿を作成し正確に把握してください。会食はなるべく控えてください。

5. コロナウイルス感染確認の場合

感染した場合、教会にお知らせください。教会内での感染が確認されたら教会を閉鎖します。

6.「すべてのいのちを守るため」エコロジー月間（10 月４日まで）について＝（略）

7. ミサの参加方法（まとめ）

・主日ミサ、平日ミサとも、グループ（4 名以上）による事前予約が必要です（原則として、高齢者や基礎疾患のある方、個人の参加はできません）。
・前日昼までに事務室に参加者名簿を提出し申し込ます。各グループ４名で代表者（名簿提出）、会場係（出欠確認）、献金係（献金を事務室に持参）、衛生係（健康確認・消毒）を分担してください。
・個人でミサ参加を希望の方は、日曜午前、ウエルカムテーブルで、グループに事前登録できます。
・土曜正午ミサは高齢者や基礎疾患のある方専用。日曜朝７時と 18 時ミサは個人参加できます。
・外国語ミサは、事前のネット予約をしています。
・各自、感染症対策（体調が悪ければ欠席する、手指消毒、マスク着用、歌わない）を心がけます。ミサの前後、庭などで知り合いと話す場合、密にならないように気をつけてください。

8. 参加できない方は「身代わり折鶴」などで

・日曜ミサは数か国語で YouTube にて中継しています。
・自分の代わりに折鶴を事務室に送れば、１か月の間折り鶴を聖堂に安置、ミサに参加できます。
・個人的祈りや霊的読書など神と交わる時を心がけてください。**（８月の「お知らせ」を参照）**

感染症に関する「８月のお知らせ（７月 31 日）」から（抜粋）

信徒の皆さまの中には、諸事情でミサに出られない方、ご聖体にあずかれない方もおられるでしょう。不自由な中にあっても、神さまが皆さんを見捨ててしまうということはあり得ません。苦しい中だからこそ、神さまはいつにもまして恵みを送ってくださいます。今こそいっそう熱心に祈りをささげましょう。神の愛に信頼して日々の生活を過ごすようにしてください。以下のような方法を試してください。

①霊的聖体拝領の祈りを唱える

実際の聖体拝領ができない方は、下記の「霊的聖体拝領の祈り」を読み、味わってください。そして必要な「願い」を祈り、「主の祈り」を唱え、最後に「霊的聖体拝領の祈り」を唱えてください。

霊的聖体拝領の祈り

主イエス・キリスト、あなたがご聖体の秘跡のうちにまことにおいでになることを信じ、すべてに超えてあなたを愛し、私の心に迎えたいと望みます。今、秘跡によるご聖体を受けることができない私の心においでください。

（霊的にご聖体をいただく）

あなたが今、私の心にまことにおいでになったことを信じ、感謝いたします。いつもあなたと一致したいと望む私が、あなたから離れることのないようにしてください。

②好きな祈りを唱える

伝統的なロザリオの祈りや十字架の道行きをはじめ、自分の好きな祈りを唱えてみましょう。短い言葉をゆっくりと何回も繰り返す祈りもよいと思います。祈りの時間をとってみましょう。

③聖書の通読や霊的読書

このような時を利用して、聖書を最初から最後まで読み通すのはいかがでしょうか。読みやすいところから少しずつ読んでいくとよいと思います。あるいは、霊的読書をしてみましょう。霊的に心が養われる本（例､聖人伝や教皇の言葉など）を改めてゆっくりと読んでみましょう。

④今の苦しみを神さまにささげる

今受けている苦しみをそのまま神さまにささげましょう。十字架上で亡くなられたイエスに心を合わせて、自分の苦しみを神への尊いいけにえとしてささげましょう。

⑤愛をもって生きていきましょう

まわりの人に、小さな愛を実行しましょう。まわりが明るくなるよう、愛と喜びをわかち合いましょう。

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。（テサロニケの信徒への手紙１　５：16 － 18）

お願い　平常どおりにミサが行えないため、教会の献金収入は激減しています。

イエズス会では、どの活動団体も次年度に繰越金を残せません。清貧を守るため、蓄財が禁じられているからです。当教会の場合、特例として繰越金分を建設基金に回し大規模修繕や建て替え金として積立てています。他目的に使用できません。しかし、現状を顧みてイエズス会会計責任者と相談し、全額を基金に入れず、本年度通常会計に回すことができました。ただ、来年度は繰り越すだけのお金が残らないでしょう。このような状況が続いてしまうと、光熱水費を支払うことができなくなるなど、支障が出てくる恐れがあります。何らかの緊急対策を講じ、財務委員会やイエズス会と協議していくつもりです。

そのような事情ですので、教会維持費を寛大に納めてくださると、とても助かります。

祈りのうちに　　主任司祭　　英 隆一朗 s.j.

「死の哲学」デーケン神父ご帰天

死生学や、ホスピスなど終末期医療の日本での定着・発展に尽くされた上智大学名誉教授アルフォンス・デーケン神父は9月6日帰天されました。88歳。

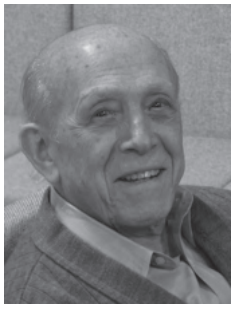
9月11日、主聖堂で行われたイエズス会日本管区主宰の非公開（オンライン配信）葬儀ミサでは、同じドイツ出身のヘインツ・ハム神父が説教で、デーケン神父の「死の哲学」、ホスピス運動に関する業績を紹介した上、述べられました。「彼には、述べたいことを日本語に表わしてくれる有能で非常に教養のある女性の協力者たちがいました。彼の講演、著書をドイツ語に訳してしまえば、情緒的で人の心を動かす力を失ってしまったでしょう」。オンライン配信には最高値１２９３人の視聴が記録されました。

アルフォンス・デーケン神父

1932年8月3日ドイツ生まれ。52年イエズス会。59年来日。65年司祭叙階。67~73年アメリカで哲学研究（博士）。73年上智大教授。90～98年聖三木文庫所長。82～2016年「生と死を考える会」活動・宣教。03年上智大名誉教授。20年9月6日帰天。

「工芸士」マルコ修道士ご帰天

国内外の教会､修道院に納められた作品の中でも私たちに身近なステンドグラス/岐部ホール玄関



フランシスコ・マルコ修道士

1921年1月11日フランス生まれ。40年イエズス会。47年来日。長束修道院、横須賀修道院、東京カトリック神学院、上智大建築管理担当。79～84年仏・西で神学研究。SJハウス。11～15年聖イグナチオ教会で司牧。20年8月16日帰天。99歳。

10 月の典礼と行事

予定が変更になる場合があります

2　（金）　初金曜日	
3　（土）	教勢調査　18：00 ミサ
4　（日）　年間第 27 主日	教勢調査　7：00　8：30　10：00　18：00　日本語ミサ 12：00　12：30　13：30　15:00　16:00　16：30　外国語ミサ　**世界広報の日・献金**
11　（日）　年間第 28 主日	**教会祭　10：00 ミサ　講演会　15：00　主聖堂**
18　（日）　年間第 29 主日	**世界宣教の日・献金**
24　（土）	**長寿の集い（中止）**
25　（日）　年間第 30 主日	**幼児洗礼式　10：00 ミサ**

本年 7 月から信徒評議員に任命された加藤仁司さんからの挨拶

2005 年 12 月 23 日粟本神父より受洗、堅信と現在に至り、英主任司祭より評議員を拝命され感謝致します。これまでとは別の関わり方をしっかりと務めてまいりたいと思います。よろしくお願い致します。

財務報告

聖金曜日にできなかった「聖地のための献金」を9月6日(日)に行いました。献金 326,054 円は、ローマ教皇庁に送られ、聖地の巡礼所や聖堂の維持管理、福祉施設や教育施設の運営などに使われます。

主任司祭：英　隆一朗
助任司祭：ボニー・ジェームス
　　李　相源
協力司祭：ヘネロソ・フローレス
　　ハビエル・ガラルダ
　　グエン・タン・ニャー
　　マヌエル・シルゴ
ブラザー：吉羽　弘明
シスター：イベッテ・サンチェス
　　（セントロ・ロヨラ）
　　フロール・フロレーセ
　　（ジョン・デ・ブリッド　イングリッシュセンター）

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサ時間　Mass

【平日 Weekday】
7 :00（聖体顕示）主聖堂　Main Chapel
12:00/18:00（ミサ又は聖体顕示、聖堂は要確認）

【日曜日 Sunday】主聖堂　Main Chapel
土曜 18:00/7:00/8:30/10:00/18:00
12:00（English）/13:30（Español）/
15:00（Việt Nam）/16:30（English）

【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
Our Lady's　Chapel
12:30（Português）/16:00（Polski）

【月の第 2 第 4 日曜日　2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel　16:30（Indonesian）

カトリック麹町教会
（聖イグナチオ教会）
〒 102 － 0083
千代田区麹町 6 － 5 － 1
TEL 03 － 3263 － 4584
FAX 03 － 3263 － 4585
http://www.ignatius.gr.jp

ホームページ　フェイスブック

マジスへのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。